

クリーンセンター建設に向けて

～クリーンセンターは、皆さん日常生活に欠くことのできない施設です。～

今月号では、平成23年10月および平成24年2月におこなった、燃やすごみ組成調査結果を紹介します。

■ごみ処理の現況

現在、本市の燃やすごみを処理している打越台環境センターは、稼働から32年目を迎え、施設の老朽化が相当進んでいます。

また、宅地開発による人口増によるごみ量の増加などにより、打越台環境センターだけでは処理しきれないため、緊急避難措置として民間事業者に約40%のごみを処理委託しています。

このため、本市および精華町の燃やすごみを処理する、クリーンセンターの1日も早い建設・稼働を目指しています。また、建設とあわせ、周辺環境負荷の軽減と、循環型社会の形成に向け、皆さんとともにごみの減量に取り組むことが必要です。

■循環型社会推進のため

皆さん一人ひとりが、限られた資源を大切にして、ごみ減量化を推進していくことが必要です。

現在、市では廃棄物減量等推進審議会に諮問し、ごみの減量目標や施策について検討しています。ごみの減量施策を検討するための基礎データとするため、平成23年10月および平成24年2月に燃やすごみの組成調査をおこないました。

■調査の概要

地域特性などを考慮して約130袋・約330kgをサンプリングし、調査をおこないました。

■ごみ組成の全体概要

燃やすごみ組成調査結果
は次のとおりでした。

成 分	重量比
厨芥類(流出水分除く)	47.6%
紙類	34.1%
プラスチック類	7.5%
繊維類	2.5%
草木類	1.7%
木片類	0.7%
ゴム・皮革類	0.4%
ガラス類	0.2%
金属類	0.9%
陶磁器類	0.0%
その他	4.4%
合計	100.0%

■厨芥類の排出状況

厨芥類の中には、手つかず食品の割合は約13%ありました。

燃やすごみ中の厨芥類について、水分を調査したところ約80%でした。

		割 合
手を付けていない 食料品	賞味・消費期限超過	3.0%
	賞味・消費期限前	0.2%
	期限不明	3.0%
	野菜・果物などの生鮮食品	6.7%
小 計		12.9%
その他厨芥類		87.1%
合 計		100.0%

■減量可能な品の割合

燃やすごみに含まれる紙類のうち、古紙・雑紙などリサイクル可能な紙類が約16%あり、ビニール・プラスチック製容器包装が約6%ありました。合計すると約22%あり、リサイクル可能である物が、燃やすごみとして出されていることが分かりました。

市では古紙類の再資源化を促進するため、市民団体などによる古紙・古布類の集団回収に対し、回収実績に応じて補助金を交付しています。古紙回収に、ぜひ協力ください。

■生ごみダイエット方法

- ・生ごみの水分をしぼる…ギューッとしぼってから、生ごみを捨てるようになります。
- ・生ごみになるものを濡らさない…濡れてしまった生ごみの水切りはやっかいです。
- 逆転の発想で、生ごみになるものは、水に濡らさないようにしましょう。
- ・生ごみを乾かす…生ごみの乾燥は、減量化につながるだけでなく、腐敗や悪臭を防ぐ効果もあります。

クリーンセンター建設に向け、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

問合せ クリーンセンター建設推進室 ☎75-1215 Fax72-3900 E-mail clean-center@city.kizugawa.lg.jp